

## ～就労継続支援A型事業所好事例集～

### 3.社会の課題に積極的に取り組み、新たな 時代を切り開くA型事業所をめざして P109～P113

2019.8.2

全Aネット 久保寺一男

## 全Aネットの発足時のA型事業所の状況

- 駅に近いところで利用者集め
- 狭いところに大勢で
- 内職仕事程度の作業
- 最賃をうたい文句に短時間労働
- 福祉収入を生産活動収入に充当
- 事業設計を、訓練等給付費と労働関係補助金を柱にしていた。

# 全Aネットのこれまでの取組み (3つの報告書)

- 予備調査報告書

～A型事業所の質の評価のセルフチェック表～

- 全国実態調査報告書

～有効回答数942事業所、次スライド～

- A型事業の可能性研究事業報告書

～雇用と福祉にまたがる制度がこれからの時代  
メリット～

# A型事業所の実態

(平成29年2月全Aネットが実施)

- 企業が50%
- 精神障害者43.9%
- 実働時間週20～30時間55.5%
- 生産活動収支が赤字（国の29年12月調査では7割）  
また経営改善書提出条件、緩和措置(収入と賃金のみ  
の比較)でも5割が赤字（全Aネット調査）

# A型事業所の使命・可能性

現在、A型事業には問題や課題は多いが、一般就労が難しい障害者にとって、労働者として働くことができる制度であり、必要な制度である！

- 障害者権利条約
- 一億総活躍社会の実現（ダイバーシティ）
- 働き手不足
- 地域生活を自立させる機能（賃金と年金で）

## A型の運営の難しさ

- 福祉施策における事務業務や相談・精神面のサポート、職業能向上支援、一般就労移行への支援に加え、
- 就業能力にハンディを持つ障害者に仕事を提供しつつ最低賃金以上の賃金を支払うことである。

**参考：A型事業所の経営破綻と利用者の大量解雇  
についての検証報告**

- ・ **広島市障害者自立支援協議会** 平成30年11月
- ・ **倉敷市** 令和元年6月

# 検証報告①

## 【経営破綻の原因】

- ・ 生産活動収入低く、訓練等給付費と特開金の公的資金に依存

## 【行政】

- ・ 認可、監査、変更時審査の不充分

※知識不足、特に事業計画の中身の吟味

※生産活動収支が赤字の事業所に経営改善計画を提出させているが、明確な審査基準がない。

## 【利用者】

- ・ A型事業に適正な障害者が利用しているか？

※支給決定に際し、ハローワーク・相談支援事業所との連携が不十分

- ・ 障害者は経営情報がないまま就職している。

- ・ 収益を上げようと厳しい業務を指示すると、楽な仕事で高収入に慣れた障害者から苦情があった。

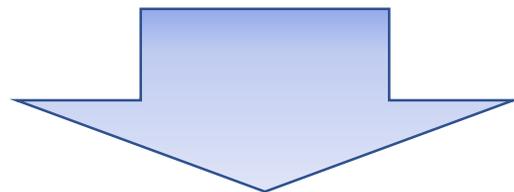
## 検証報告②

### 【事業所運営】

- やりがいのある仕事の提供ができていない。
- 職員に対して経営情報が公表されていないため、職員のやりがいになっていない。
- 職員の質の低下、福祉的支援が不十分

## おわりに

- **良い運営のA型事業所を増やすことを引き続き努力してゆきたい。**



- **A型事業所の好事例集の作成**
- **A型事業所の認定制度をスタート**